

（1）会合の概要

- 日程・場所 : 2022年2月24日（木） Virtual meeting（Zoom）
検討事項 : ITU戦略及び計画案、対面式会合の再開について審議。
参加者 : 米、英、露、中、韓、仏、印等から約100名が参加。日本から総務省、民間企業等計7名が参加。

（2）主な結果

（1）ITU戦略及び財政計画案に関する検討

- 戦略及び財政計画に関するITU理事会作業部会（CWG-SFP: ITU Council Working Group on the Strategic and Financial Plans）において2024年-2027年ITU戦略及び財政計画が議論されており、RAGに対して意見が求められたもの。
- RAGにおいて主に次の点が指摘された。
 - ITU-Rの目的は2.6節のタイトルとなっている「優先事項(Thematic Priorities)」ではないことから、タイトルを再検討すべき。
 - 戦略計画の草案の現在の構成が、それぞれ特定の任務を持つ3つのセクターを定義するITUの基本文書に沿わない。
 - 成果指標の一部が成果目標の達成度合いを正しく反映できるものになっていないことから再検討すべき。
- RAGでの検討の結果、2024年-2027年ITU戦略及び財政計画案に対するRAGからのコメントを議論するスモールグループ※の設立が承認された。スモールグループからの出力文書をもとに4月開催のRAG会合で議論し、9月に開催されるITU全権委員会にRAGとしての意見として提出する予定となった。
※スモールグループの議長はカメルーン、メンバーは米国、ロシア、イラン、カナダ、ケニア、その他参加表明する国で構成。

（2）対面式会合の再開に関する検討

- ITU事務局から対面式会合について下記のとおり整理していることが説明。
 - 会合はジュネーブ時間の9:00から17:00までの時間帯を基本とし、参加者はオンライン出席や現地出席にかかわらず全員Zoomで参加する。
 - 安全対策についてはスイス当局のガイダンスに基づき実施する。ITUのウェブサイトにはこれらの情報を掲載し、最新の情報にアクセス可能であるようにする。
 - オフラインでの議論にリモート参加できるツールの導入を検討している。
 - 3月にジュネーブで開催されるWTSAを参考にする。
- 日本からはITU-Rの対面式会合の再開について歓迎するとともに、渡航制限や参加者への公平性について考慮することを提起し、対面式会合の再開に向けた議論を歓迎することを発言した。

（3）RAG会合の次回のスケジュール

2022年4月11日～14日：ハイブリッド式開催（ジュネーブ、Zoom併用）